

ベテラン農業者の技術と若手農業者のアイデアで地域農業者にも都市住民にも魅力的な農業地域の創出

みやこ町犀川地域活性化協議会（みやこ町（旧犀川町））

【地域協議会構成団体】 四季犀館出荷者協議会、直売所（よってこ四季犀館）、JA福岡京築、みやこ町商工会、京都森林組合、みやこ町役場（事務局）

1. 将来ビジョンの作成

策定年月：平成28年1月

- ・平成27年7月4日協議会設立総会を実施。

2. 将来ビジョン達成のための取組

I 農林業を守る

- ・農作業のサポート：高齢化等に伴う労働力の軽減を図るため、直売所において、農機具レンタル、農作業等支援を実施。新規就農者へは無料でサポート。
H28は、4人（12名）、H29は、3人（約1ha）H30は、3人（約10名）の利用実績。

II 農林業の所得や雇用を増やす

- ・地域特産品の創出：6次化商品の原料確保のため、新規作付者にハバネロ苗を配布・作付。
H29は、3名（約4名）、H30は、4人（約3名）が作付。また、特産野菜ごぼうの生産維持のため、空き家、機械、ほ場をパッケージにした受入体制を整備。しかし、新規就農者の確保には繋がっていない。
- ・農林産物の付加価値創出：上記で作付したハバネロを利用した一味唐辛子や、みやこ町のジビエ肉を活用した鹿丼など新たに5つの商品の開発やパッケージ作成などを実施。H30は鹿のミンチ肉を活用した鹿コロッケを作成し、イベントにて販売実施（4回）。

III 地域の人口を増やす

- ・施設や景観等を活用した交流人口の拡大：県内でも山林面積の多いみやこ町の特性を活かし、H27には林業体験を開催（36名参加）。都市部との交流を実施。伐採などに使用する重機を見学し、林業を身近に感じてもらう。H30は、犀川柳瀬地区でゴボウ掘り体験を実施（12名参加）。
- ・H27に買い物動向を地域住民へアンケート調査。移動販売、宅配などの要望も多い。



【みやこ肉カレー 新パッケージ】



【農作業支援】



【農業体験イベント(ゴボウ掘り)】



【鹿肉コロッケ販売(イベント出店)】

3. 今後の展望

- ・地域の営農継続、新規就農者の育成のため、農作業等支援の持続的な実施を図っていく。このためには、人材の確保が必要。
- ・原材料となる特産品の作付維持のため、栽培研修会や定期的な現地指導を普及指導センター等の関連機関と連携しながら発展させていく。
- ・移住定住フェア、新規就農セミナーなどへ町と連携しながら出展し、ごぼうを始めとする地域特産品の生産者の確保に力をいれていく。
- ・直売所の魅力である充実した商品展開を図るため、新たな6次化商品の開発を継続する。6次化商品の核となる農産物の確保のためにも、農機具の貸与や、苗の配布などを行い、生産者の支援を継続する。
- ・林業体験は、オペレーター賃金の確保が課題。参加者の増加に繋がる魅力的なプログラムを提案し、円滑な運営を目指す。